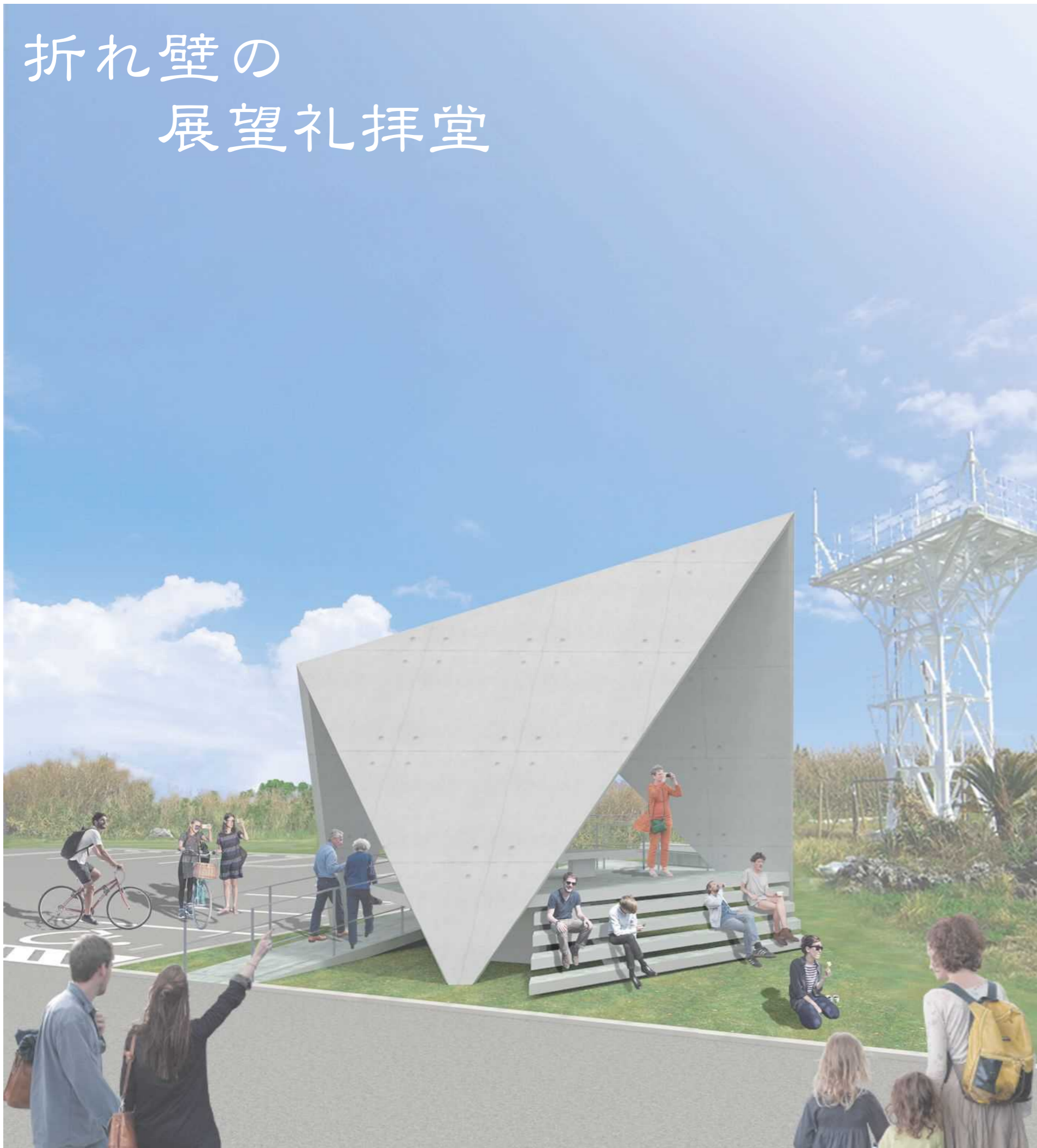


# 折れ壁の 展望礼拝堂



## コンセプト

沖縄戦の最終地、それを望む喜屋武岬公園  
そこから見える荒崎海岸線は美しくも儚げな印象を与えてくれる  
この印象は、この地を表すのに相応しいもののように感じた

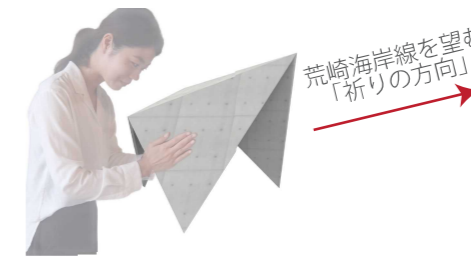
それぞれの気持ちを損なうことなく同じように穏やかな時を過ごす  
そんな憩いの場所

平和の尊さに向き合う野外礼拝堂と、  
美しい眺望の展望台という2つの機能を併せ持つ休憩所  
そんな、2つの顔を持つ「展望礼拝堂」を提案する

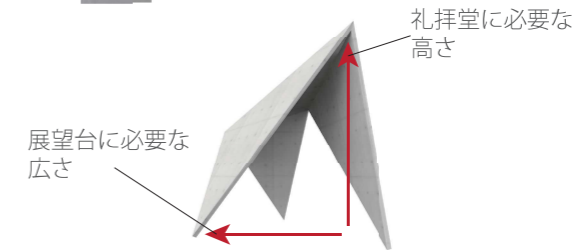
## プログラム



祈りの形である合掌を三角で表現し、  
構成する。



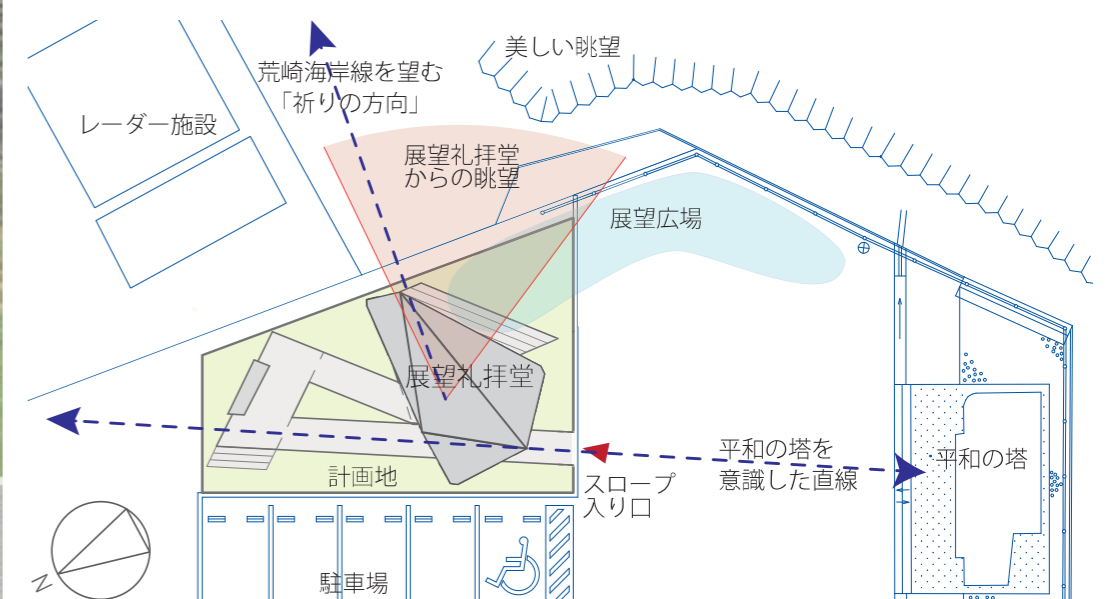
この「展望礼拝堂」は、人が頭を下げ  
て合掌し祈りを捧げる様子を表している。  
それは同時に、訪れた人々に祈る  
方向を示してくれる。



閉塞感によって気持ちを切り替える必要  
がある礼拝堂と、開放感を必要とする  
展望台の両立を図る。  
三角壁の大きさや角度、位置を調整し、  
美しくも儚げな眺望を同時に享受出来る  
建物にする。

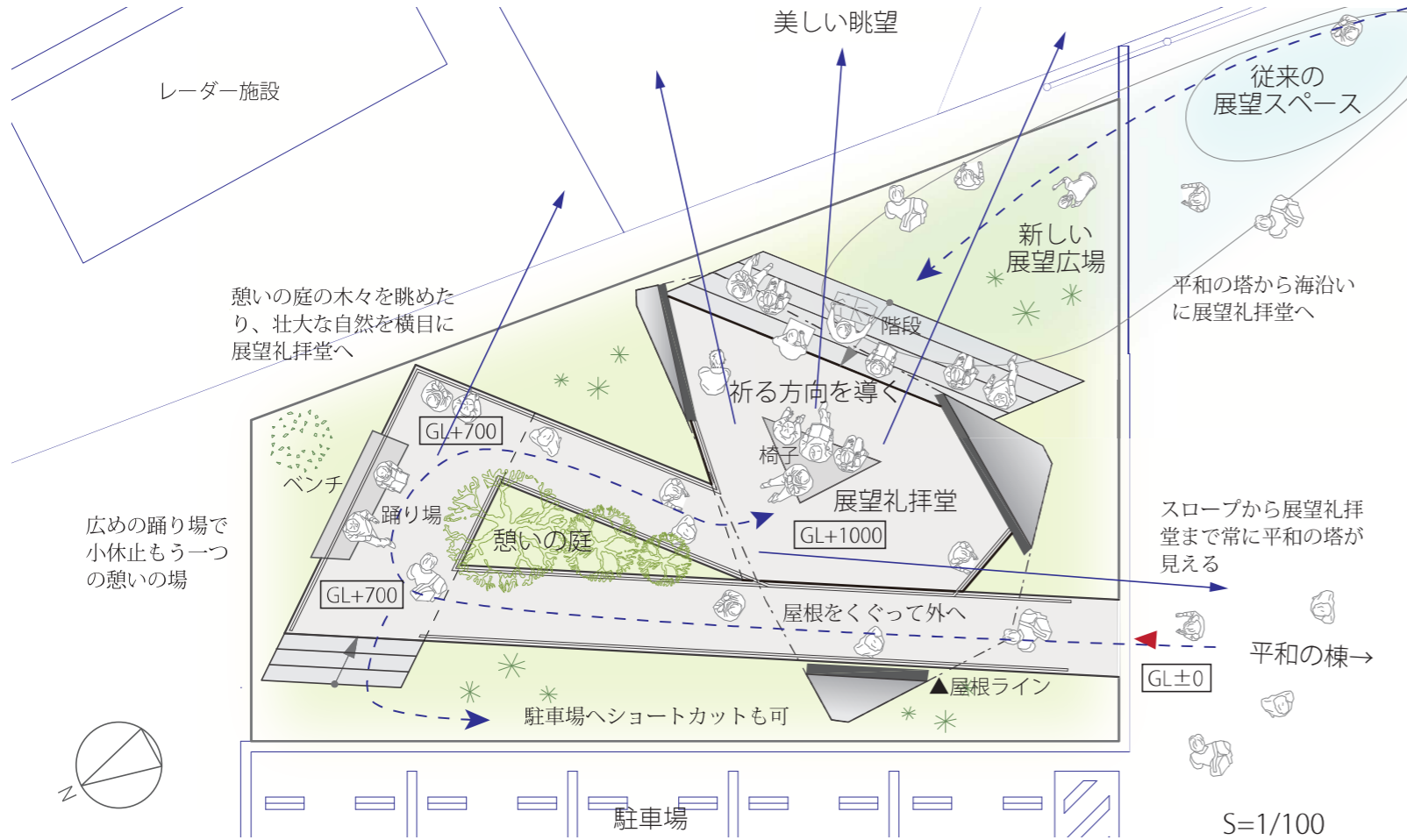
## 配置計画

平和の塔からまっすぐ伸ばした直線にアプローチとスロープを配置し、**平和の塔を意識出来る計画**  
とした。また、海沿いに展望広場を設け、大人数が同時に海を眺めることが出来るスペースを確保  
した。「祈りの方向」を荒崎海岸線と定めるとともに、隣接するレーダー施設が視線に出来るだけ  
入らないよう「展望礼拝堂」の中から望める範囲を調整し配置計画を行った。

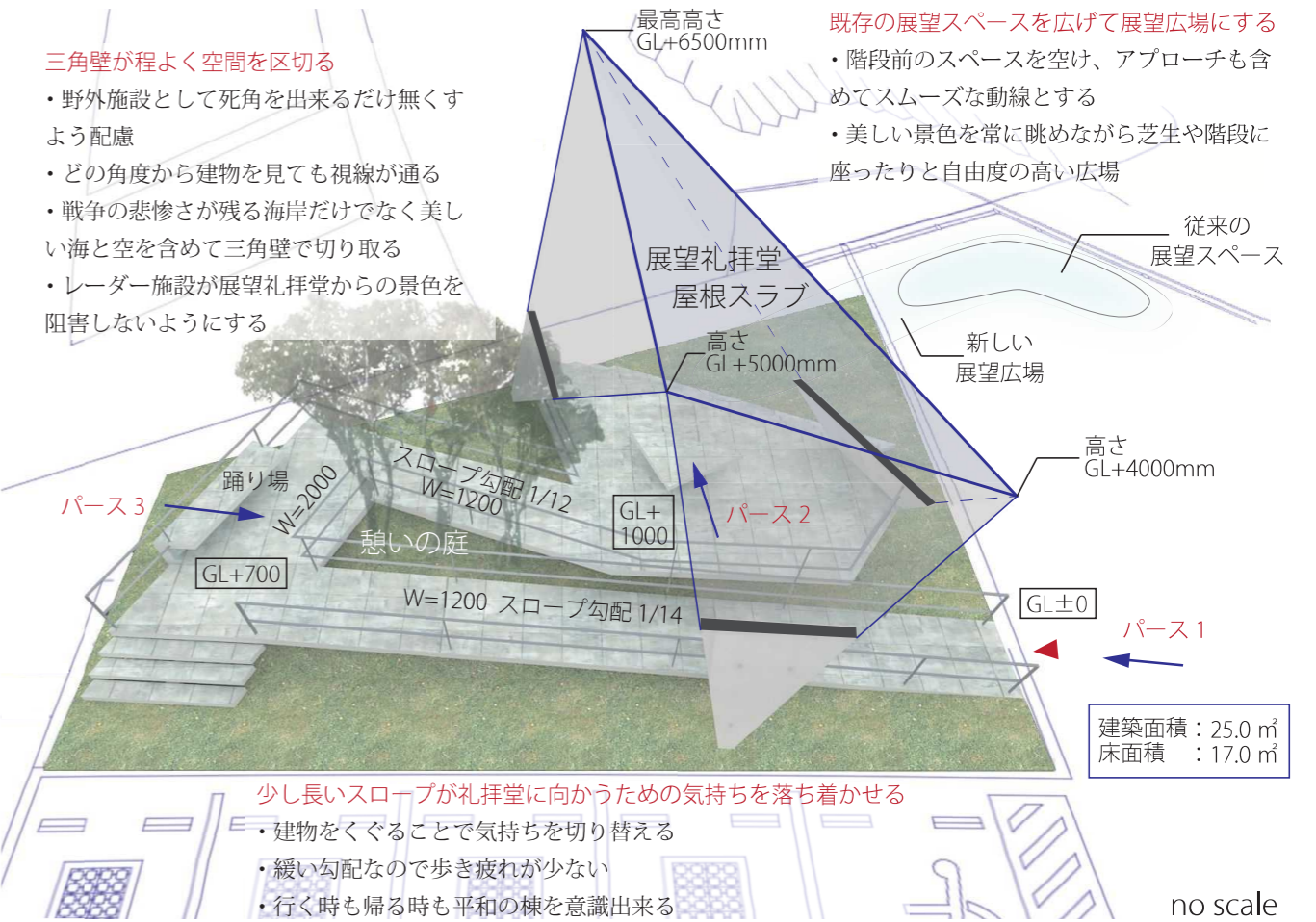


配置図 S= 1/250

平面計画

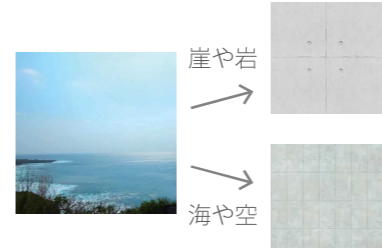


空間構成

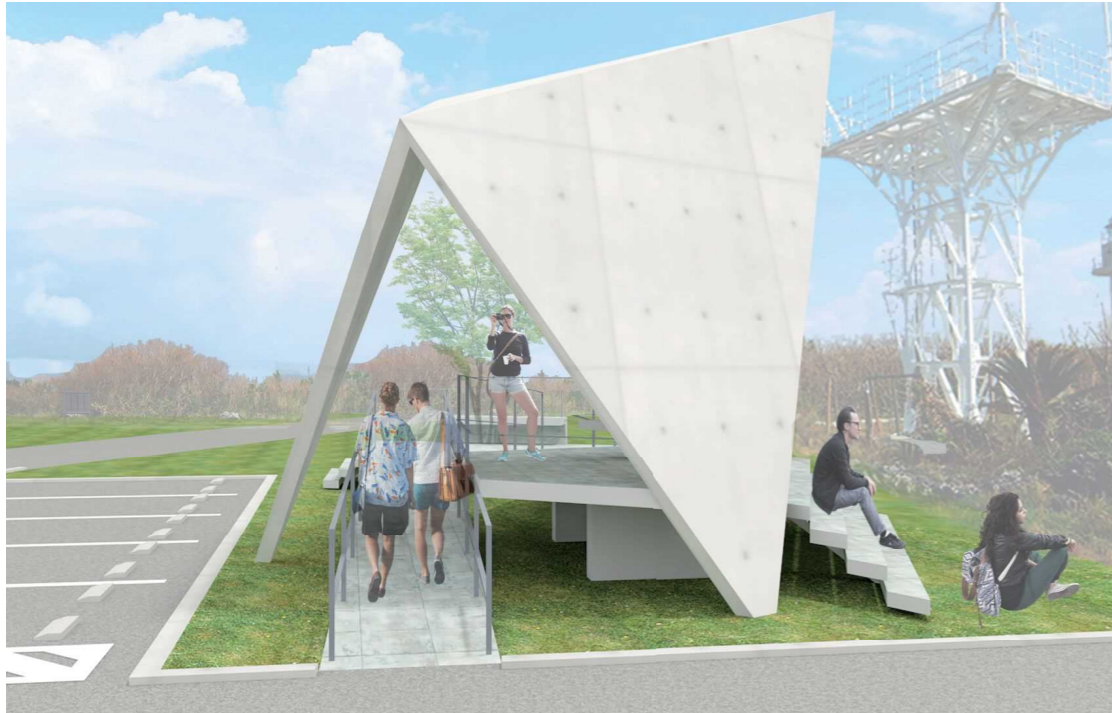
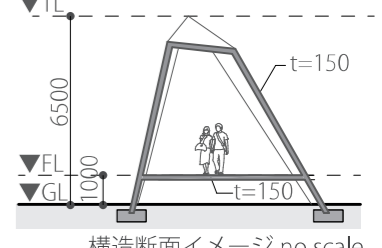


平和の棟を意識した動線により、この海岸線の美しさ、儂げさに気付き、想いを馳せる  
この「展望礼拝堂」は、三角壁による操作で祈りや景色を抽象化することで、戦争の悲惨さや平和の尊さについて、来訪者にとってより分かりやすい施設となることを目指しました。歩くたびに景色が変わり感じ取り方が変わるこの施設は、訪れた人に来た時とは違う気付きを与えてくれます。

シンプルでこの地に馴染む仕上げにする  
「展望礼拝堂」の壁と天井には耐久性+耐水性に優れた「水性アクリルシリコン樹脂クリア塗装仕上げ」とし、台風及び塩害から躯体を守ります。床やスロープの仕上げには美しい海や空に馴染む色のタイルを使用します。



合理的で経済効率の良い構造にする  
耐震性として安全な壁式鉄筋コンクリート造を採用し十分な壁量を確保します。立面的に耐震壁を傾けることであらゆる方向に水平力を負担してくれます。また3ヒンジとなり、剛性及び耐力が上がるため躯体厚さを減らすことが出来ます。



■パース1 平和の塔を意識した動線



■パース2 「展望礼拝堂」からの「祈りの方向」



■パース3 踊り場から平和の塔を望む